


進学先

和歌山県立 医科大学

保健看護学部

森川 朋香さん

 海南高校
卓球部 キャプテン

インタビューー

 青石千映
(AC 海南駅前校カウンセリングスタッフ)

志望校を決めた時期はいつ頃だった？

森川: ずっと教育学部か看護学部か迷っていて。教育学部というか、保育系に。子どもと関わる仕事がしたいなと思って、保育士にも興味がありました。看護学部は、助産師になって、生まれてくる子どもとお母さんの支援をしたいな、と思っていたので。

青石: 高校3年間の評定が4.8！クラブも最後まで続けてこの結果。勉強面で意識してたことは？

森川: 中学生の頃から「点数は高い方がいい」と思っていたから、高校入学後もそれを意識していた。定期テストの勉強もできるだけやって評定で「5」を目指していました。大学受験については、姉も同じ海南高校から指定校推薦で大学に合格したので、自分もいずれ行きたいところが決まって、その大学に指定校推薦があるなら、指定校で行けたらいいな、というぐらいに考えていました。

青石: 全教科「5」を目標に。テスト勉強を始めるタイミングは？

森川: 数学は毎日の学校の授業にあわせて4プロを少しずつ解いていました。理科や社会はテスト発表されてから始めていました。

卓球部のキャプテンを務めて。両立は大変だった？

森川: テスト発表されてからは部活が休みになるので、その期間にしっかり勉強時間を確保するようにしていました。部活がある期間は、部活中心の生活でした。テスト期間じゃない時にする勉強は、4プロと小テストの勉強。

なぜアカデミーキャンパスを選んできたの？

森川: 高校に入ったら、塾に行かなあかんと思って。個別より集団授業の方がよかったので、体験授業を受けに来ました。それがよかったから。友達も通っていたし。

文理の選択では理系を選択しましたね。

森川: もし保育士にならないのであれば、数学が英語の教師になりたい、と思っていて。でも数学の先生になろうと思ったら数Ⅲもやっておかないといけないので理系、と思って。理系の方が選択肢も増えるかな、と。でも、2年の秋の科目選択をする時には、もう教育学部に進んだとしても保育、という気持ちが大きくなってたから、数Ⅲの選択はしませんでした。理科は、ものづくりに興味があったので、物理の方がいいかな、と。生物の暗記より、物理の計算の方が得意だったので、物理にしました。

受験勉強を始めよう、と思ったタイミングは？

森川: 2年生までは、そこまで勉強していなくても、模試でもある程度取れていたから、とりあえずテスト勉強だけでいいかな、と思っていたけど、3年の模試でちょっとやばい！やらなやばいな！と思いました。でもその頃ってちょうど部活引退の時期とも重なっていて、練習も最後の追い込みで、遅くまでやる日も多かったから、勉強時間もあまり取れなくて。だから、今はもう部活に専念して、引退したら切り替えて頑張ろう、と。

青石： 力を入れた科目は？

森川： 数学は、定期テストの勉強で結構、基礎の部分は固まってたと思うから、課題は時間配分でした。初めは最後まで全然解ききれやんかったけど、ずっとその練習をしていたので、ひと通り解く時間を作れるようになりました。ACの徳山先生の授業でも、最後の方は結構点数も取れてきて。

青石： そうだったね。数学のクラスで朋香1番やったんちゃうかな。

森川： 理科基礎はほとんど定期テストの勉強しかしてなかったです。そこまでやってる余裕があまりなくて。和医大の数学は配点が倍になるので、やっぱり英数に時間をかけてましたね。

受験生活で1番しんどかった時期は？

森川： 高3の秋。志望理由書と、面接の練習が負担で。あんまりうまくできなくて。自分の意見を言うのが苦手なので面接の練習が一番いやでした。学校に遅くまで残って先生に見てもらったりしていたので、その時期、共テの勉強はほとんどできなかったです。

青石： 推薦に出願すると決めたのは、夏休みぐらいだったかな。

森川： そうですね、夏休みが終わる直前で決めたと思います。助産師になろうという気持ちで。夏休み中は、勉強どころよりも「志望校が決まっていけない」という状況に焦ってました。

アカデミーの授業のことなどを教えてください。

森川： 山本先生も徳山先生も丁寧に教えてくれてわかりやすかったです。山本先生は数学の問題を身近なものや現象に例えて説明してくれたから、頭に残りやすかった。1つの問題に対して、何パターンも解法を教えてもらったので、その中から自分にあった解法を見つけることができたし、そんな考え方もあるのか、という発見がたくさんありました。徳山先生の授業は単元ごとに先生が問題を作ってくれていたのが復習しやすかったです。2学期の終わりぐらいから先生が作ってくれた共通テスト形式の問題を何回も解いたので、時間配分の練習ができてよかった。特に確率がわかりやすかったです。久保田先生の授業では、「英語の勉強の仕方」から教えてもらえました。例えば、辞書の活用法。普段、自分で勉強する時はスマホで意味を調べていたけど、久保田先生の授業を受けてからなるべく辞書で調べるようになりました。名詞だと思ってた単語が実は用法が変わると副詞だったり。こんな意味もあったんや、とか、1つの単語からどんどん広げていくことができて。新しい発見がいっぱいありました。授業では1文1文を訳す練習をして、品詞の見分け方が身に付いたので、長文を読むときに理解しやすくなりました。受験基礎英語のテキストの復習をして、ターゲットを800まで完璧にしたら、点数が上がりました。

青石： EQはどうだった？ほとんど満点合格だったね！

森川： EQ、自分1人だと絶対あんなにたくさん熟語を覚えられなかった！私立の問題も、共テでも、めっちゃ使えた。2年までの模試ならここまでわからなかったけど、EQを始めてから、こ

れEQでやったやつ！って思えることが多くなりました。

青石： 他のイベントで印象に残っているものは？

森川： チャレ勉や勉強会。チャレ勉がなかったら、テスト期間でも土日はダラダラしてしまってたと思う。休み期間の勉強会は朝からあったけど、自分1人では午前中は絶対無理だったし、やろうと思ってスタートするまで時間がかかってたから。みんなと勉強するのも楽しかったです。

青石： 夏特訓や秋特訓はどうだった？

森川： 夏特訓では数I Aを。確率の対策は、夏特訓のテキストを何回も解きなおしてました。

青石： サテラインは？

森川： 蔭山先生の共通テスト現代社会がよかったです。模試でも授業で習ったことがいっぱい出て。授業ノートがめっちゃ役に立ちました。難しい内容や流れでも例を使って説明してくれたので理解できました。夏期講習のテキストは右のページに1つ1つの問題の解説を詳しく載せてくれていたので復習しやすかったです。「蔭山の共通テスト現代社会」という参考書を併用すると頭に残りやすかったです。

受験生活を振り返って。嬉しかったこととか、励みになったことは？

森川： 推薦の準備で、面接練習がうまくいかなかった時や、点数が伸びなくてくじけそうになった時も1人で抱えてしまうことが多かったけど、友達がアドバイスをくれたり励ましたりしてくれたこと。塾の友達といつも一緒に電車で帰ってたから、その時に結構話を聞いてもらったりして。完太(児嶋さん 和歌山大学推薦合格)も面接試験があったから、どんな感じにしてる？とかも聞いたりして。

11月末に面接試験を受けたあとは、どんな状況だった？

森川： 模試も学校の演習問題でも、全然点数が上がらなくて。下がった教科もあったから、なんか、もう、受かるかわからんという状況で。でも、みんなと一緒に勉強できたので、辛いというより、楽しいというか…みんなで頑張ろう、みたいな感じで。そんな環境があった、というのが大きかったです。1人でやってたら辛いだけだったと思う。学校では、仲のいい友達は指定校とか公募推薦で進路が決まった子ばかりだったので、補習も教室の移動もずっと一人でした。自習の時間があっても、ずっと喋っている子がいたりで、あんまりピリピリしてる雰囲気はなかったかな。だから、学校に残って勉強するということはほとんどなくて、誰かが勉強している塾に来るようにしてました。

青石： ACの子たちは、本命が共テや一般、という子が多かったけど、ほんまにみんな最後まで頑張ったよね。共テが終わって自己採点をして…

森川： 今までより、ちょっとやけど、1番高かったです(笑)

最後に、後輩へのアドバイスをお願いします。

森川： 勉強面ではやっぱり単語！もっと早く、もっとちゃんとやっておけばよかった！3年になっ

たぐらいでちょっとやらなあかな、って思ったけど、もっと早くから。

青石： 英検も2年の終わりで2級をとれて。それは大きかったよね、受験をする上でも。

森川： そうですね。その時は、英検の問題集をやってみました。で、それを私大の公募の前に解いてみたら、ほぼ満点？というぐらい点数が上がって(笑)英語は、もともと得意だったということもあったと思うけど、1年間で結構力ついたな、って思いました。ほんまに英語は単語が1番やと思った。英検でも、4択問題で、これターゲットに出てたって思うこと、いっぱいあったから。あとは、切り替えかな。部活は部活、定期テストは定期テスト、学校行事はしっかり楽しむ、という感じで、結構切り替えがうまくいったのかな、と思います。引退した後も。

青石： スムーズに勉強モードに入れたよね。ちょっと浮ついたのも、夏祭の時ぐらい？(笑)

森川： うん(笑)。モチベーションが上がらない時期でも、あんまりやる気が出ない時でも、とりあえず塾に来て。みんなやってるからやろうって。塾のメンバーはみんな仲良かったし、一緒に頑張る友達が塾にはいたから、よかったです、ほんまに。

編集後記 ~インタビューを終えて~



合格おめでとうございます！志望進路をなかなか絞れず心配しましたが、無事決まってよかったです！森川さんは部活・勉強・学校行事…などすべてにおいて「やる時は集中してやる。終わったら切り替える。」を実践していました。キャプテンとして責任ある忙しい立場であったにもかかわらず、勉強と部活を両立させ、毎日少しずつ努力を積み重ねた結果、3年間の評定は4.8。見事です。インタビューでも話していましたが、森川さんにとって面接練習や「自己を語る」(和医大推薦入試出願の際に必要な書類)の作成はつらい時間だったと思います。始めた頃は、自分の考え・思いがあるにも関わらず、それをうまく言語化できなかったため、悔しい思いを。でも諦めず、練習を重ねていくうちに、自分の言葉で思いを伝えられるようになり、本番では練習の成果を発揮できたようで、すぐに勉強に切り替えて共通テストに向けて最後の追い込みに集中していました。ある意味、「勉強」している方が楽だったかも…！(笑) チャレ勉やAC海南勉強会にも積極的に参加してくれ、集中して勉強できる、友達と一緒に頑張れるという場所がACと言ってくれたこと、嬉しかったです。これから始まる新しい生活が充実したものであるよう祈っています。ありがとうございました！

AC海南駅前校カウンセリングスタッフ 青石千映